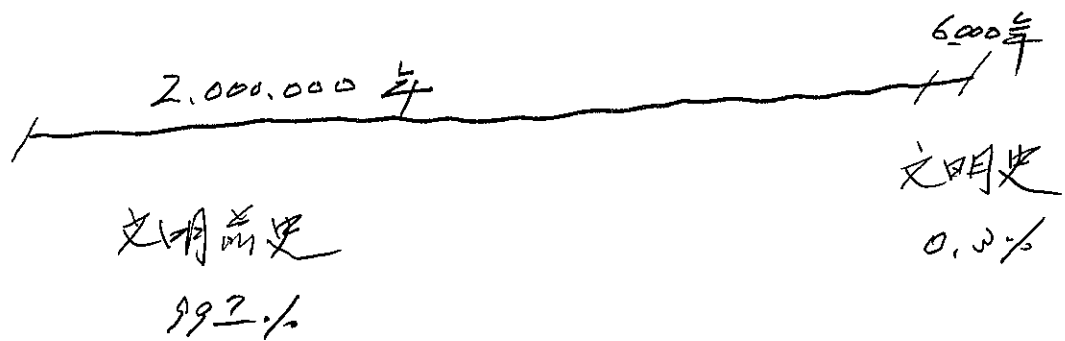


4 世界通史

2021.05.24
世界通史

0 文明之前的人类

(1) 人类在文明之前的 200 万年历史，在你不足 6,000 年的文明史



(2) 文明史

时至今日，每天都有重大的事件无休无止地蜂拥而来。

(3) 变化之速引起了一个非常重大的问题，
人类是否能迅速适应变化？
甚至被灭绝的命运？

(4) 两个大发展奠定了历史，从圈的动物中分离出来，

① 人类转变灵长目到真正的人类

② 原始人从靠大自然食物采集者转变食物生产者

1. (牛津) 世界史的性质

- (1) 研究的是全球，而不是某一个国家或地区。
- (2) 关注的是整个人类，而不是局限於西方或非西方。
- (3) 人类在非洲大陆上出现，并逐渐扩散到欧亚大陆、澳大利亚和南北美洲。
- (4) 世界历史地理被认为是构成地球表面的各大陆地理的总和。

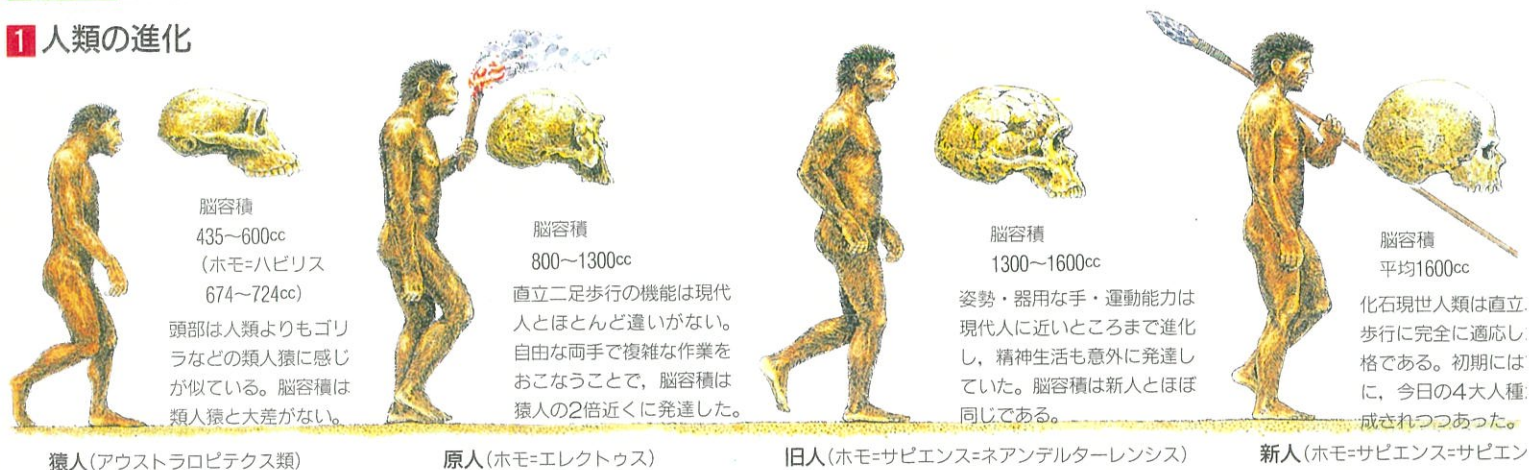
2. 人类—食物采集者

- (1) 地球形成于45亿年前，
约15亿年后，地球上才出现最原始的生命，
即原生的单细胞生物。
- (2) 最早，适应陆上生活的是两栖动物，
接着是早期时期的大批爬行动物，鸟，
最后是哺乳类动物。
- (3) 哺乳类动物在地球生物界，居统治地位
已达6000万年。
- (4) 约在50万年前，人类与猿系祖先。
直立人取代了更新世灵长类动物。
- (5) 火的控制产生了根本而深远的影响。
- (6) 人类祖先、在距今约35,000年前时，
终于完成了自己的整个进化过程，而转变为人类。

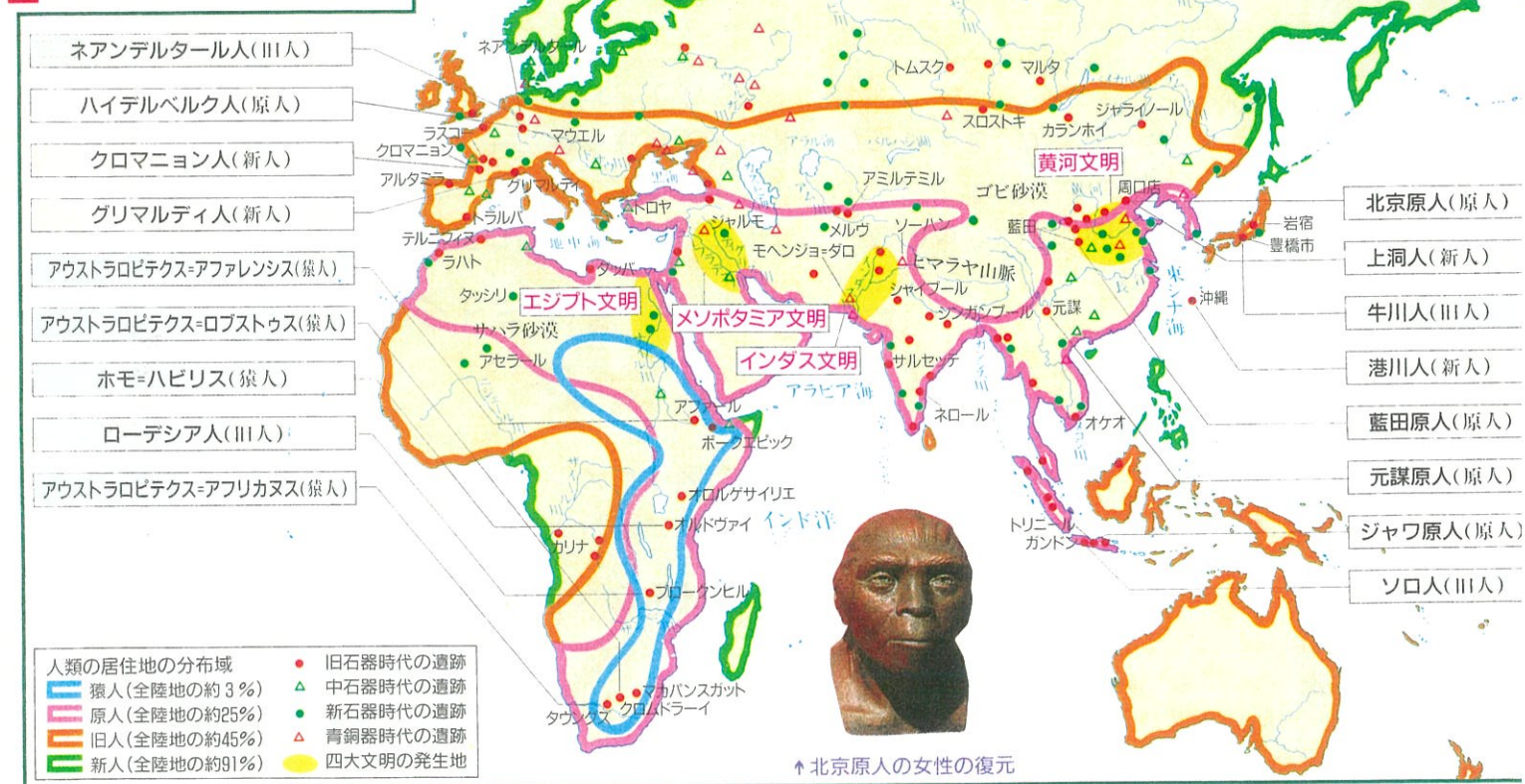
1 人類の出現と文明への歩み

- ①悠久の道のり、人類の進化
- ②現生人類の登場、歴史時代の開幕

1 人類の進化



2 先史時代の遺跡と出土人骨



3 人類の出現と石器時代の変遷

地質年代	500万年前 新生代第三紀・鮮新世	170万年 新生代第四紀・更新世
人類の出現	猿人 400万年前出現	旧人 20万年前出現
考古年代	前期旧石器時代	中期旧石器時代
使用石器と特色	礫石器(自然石の一部を打ち欠いた簡単な打製石器)を使用	- 打製石器 - 新しい技法が開発され、剥片石器・石核石器が製作され、尖頭器など石器が発達
文化の特徴	- 直立二足歩行、両手を自由に使用 - 移動生活 - 物質文化の継承	- 火の使用、言語の使用 - 自然環境への適応力が高まり、居住地域・食糧源の幅が拡大 - 死者の埋葬習慣が始まる - 身体への彩色 - 衣服(獣の皮)の着用が始まり
社会経済	獲得経済(狩猟・採集・漁撈) ホルド(群)社会	

第1章 古代文化の成立

1 先史時代の世界

② 旧石器の変遷



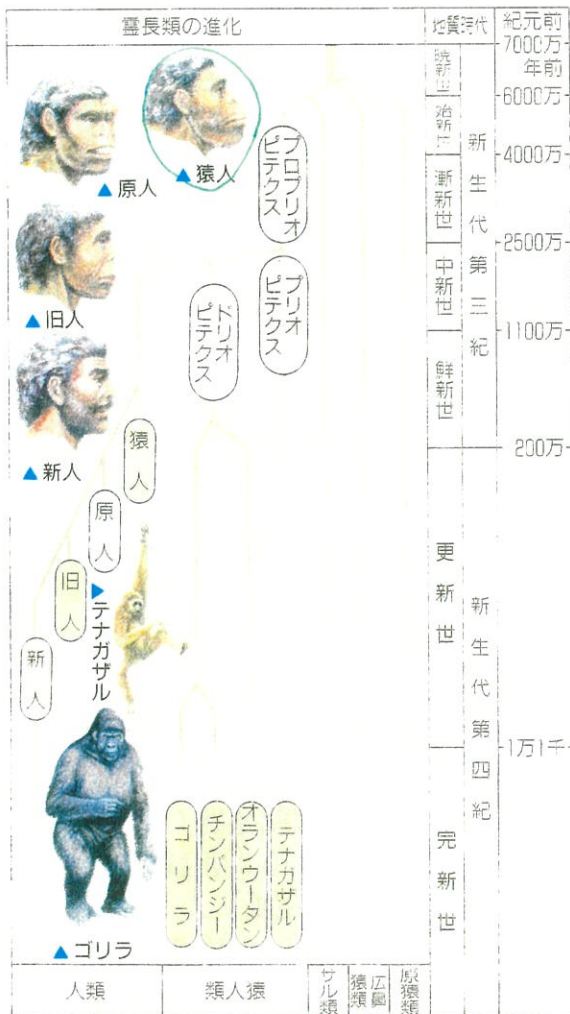
▲ 猿人の石器
(オルドヴァイ文化)

▲ 旧人の石器
(ムステイエ文化)

▲ 新人の石器
(ソリュートレ文化)

猿人の石器は礫の一端をあらく打ち欠いただけの礫石器である。旧人・新人の石器は角などでつくった道具を用いて整形してある。

① 人類の起源と進化



③ 先史時代の変遷

実年代	地質時代	アルプス氷期	北アフリカ雨期	考古年代	人 類	文 化					
紀元前 230万年	新 更 洪 積 世	ドナウ氷期	カゲラ雨期	前期旧石器時代	猿 人 アウストラロピ テクス類	● 礫石器の使用 アイ文化)					
100万		ギュンツ氷期			原 人 藍田原人 ジャワ原人 北京原人 ハイデルベルク人	● 握斧(アビビ シュール文化) 器(クラクト、 ヴァロア文化) ● 火(北京原人 使用					
70万		第1間氷期	間 雨 期		旧 人 ネアンデルタール人 (ホモ・サピエンス・ ネアンデルタールensis) ローデシア人 ソ ロ 人	● 尖頭器(槍先と や削器など打 製) ● 火の使用の一 の風習、顔料、 装飾(ムステイ)					
50万		ミンデル氷期	カマシア雨期			新 人 現生人類 (ホモ・サピエンス・ サピエンス) クロマニヨン人 グリマルディ人 周口店上洞人 資陽人	● 女性裸像を刻 ● 装身具が作ら リニヤック文 ● 精巧、多様な 矢の考案(ソ 文化) ● 絵など骨角器 窟壁画(マドレ ニール)				
40万		第2間氷期	間 雨 期				中石器時代				
20万		リス氷期	カニエラ雨期					中石器時代			
15万		第3間氷期	間 雨 期						中石器時代		
7万5千										中石器時代	
3万8千		ヴ ユ ル ム 氷 期	カン フル 雨 期								中石器時代
1万1千											
1万1千	四 完 沖 積 世	後	後	中石器時代		● 鏃・鋸・槍先 器(アシール トノア文化) ● 石斧〜樹木の など骨器、丸 技術の進歩、 (マクレモート 文化) ● 石灰・石臼・石 の器用(ナト フ文化)					
7千	新 更 洪 積 世	後	後				新石器時代		● 磨製石器・土 ● 織物の製作 ● 泥土〜土干し (ジャルモ文化 ナス化など) ● 文土の地域的		



▲ ラスコ洞窟壁画 長さ162m。フランス。後期旧石器時代のマドレーヌ期には、恐らくは呪術的意図からであろう、洞窟の奥に動物の壁画が描かれていた。描写は極めて写真的。

3. 人类 — 食物生产者

(1) 旧石器时代的人之所以能成为人，他们学会了说话，制作工具和使用火。

(2) 这些本领使他们远远地快过周围的其他动物。

(3) 但是，从某种意义上，他们与其他动物十分相近的。

其他动物一样，捕捉小动物为生。

靠採集食物谋生。

(4) 农业的起源

当人类作出旧石器时代的新发现 —

不仅靠採集食物，而且通过栽培植物。

(5) 这，一个崭新的世界展现在人类面前，

使人类的眼界大为开阔。

从此，人类告别了旧石器时代，踏入新石器时代。

(6) 农业的传播

4~ — 欧亚大陆的古代文明 — (西元前 3500 - 1000 年)

(1) 农业革命是人类成为真正的人之后所取得的
第一个重大成就。

(2) 来生产自己的食物。

有了全新的发展，在他们中间出现了文明。

4. 古代文明的起源

(1) 最早出现文明之光的是 底格襄期河

和幼发拉底河孕育的一片荒原。美索不达米亚。

— 大致相当于现在的伊拉克共和国的南部
— 约 3500 年时

(2) 文明的性质

这些特征包括 ① 城市中心 ② 政治权力

③ 纳贡或税收 ④ 文字 ⑤ 社会分为阶级或等级

⑥ 巨大的建筑物 ⑦ 各种艺术的基本和科学...

(3) 美索不达米亚文明

BC 3500 年

埃及文明

" 3000 年

印度河流域的文明

" 2500 年

中国黄河流域的文明

" 1500 年 ~ 2000 年

中美洲和秘鲁的文明

" 500 年

5. 古代文明 诸类型

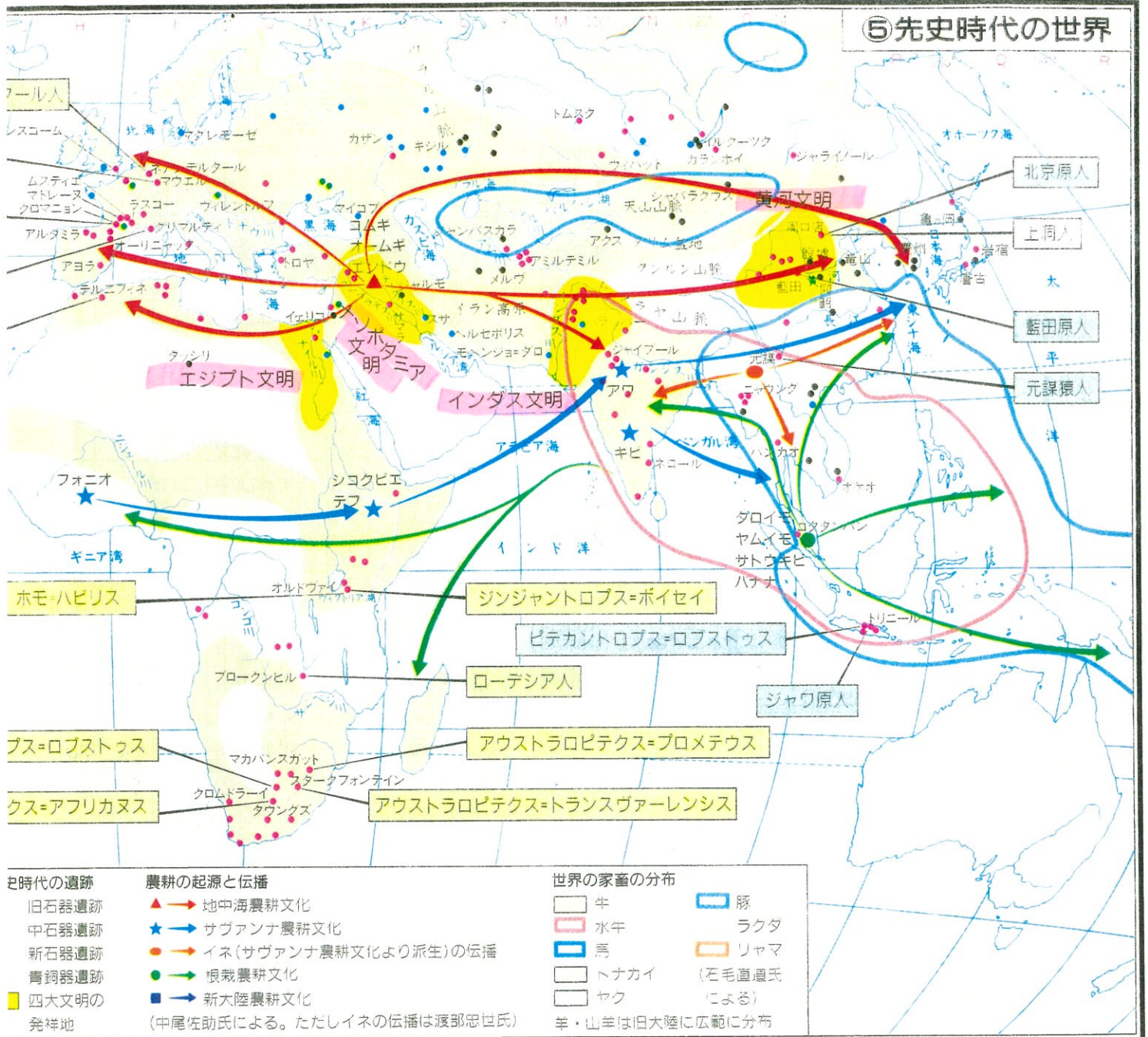
- (1) 食物的种类很多, 因而, 人类都有多种生活方式, 食物的不同, 决定了各自生活方式的不同。

— 亚里士多德

- (2) 距今数千年的人类最早的各大文明的发展情况, 技术革新、地理环境, 和经济组织各种各样。

- (3) 古人如何看待生与死, 人与人之间的关系, 都有独特的人生观, 生活方式 ----

⑤先史時代の世界



農耕・牧畜文化の伝播

農耕・牧畜の起源について、ヨーロッパでは一元的起源説が強いが、アメリカのマーク・ピップや日本の中尾佐助氏は多元説をとっている。いずれにせよ、農耕・牧畜の文化が先進地帯から伝播したことは容易に想像できる。その結果、西アジアに始まったムギ作農耕が地中海地域から中央アジアのオアシスを経て黄河流域へ、また、インダス川流域へ彩文土器と磨製石斧を伴って伝播し、その農耕地帯に沿った草原地帯には、同じく西アジアに始まったマギ・ヒツジなど酪農用家畜の飼育が遊牧という形態をとって広がった。なお、遊牧民の文化標識は細石器である。さらに、ユーラシア大陸北部に広がる森林地帯に住む狩猟採集民には土器の製法が伝わり、骨角器とともに磨白文土器を特色とする文化が生まれた。



▲ストーン・ヘンジ イギリス、ソールズベリ平原。新石器時代、ヨーロッパからアジアにかけて建造された巨石建造物のひとつ。高さ約4m、四重の環状列石。前1800年頃建造。

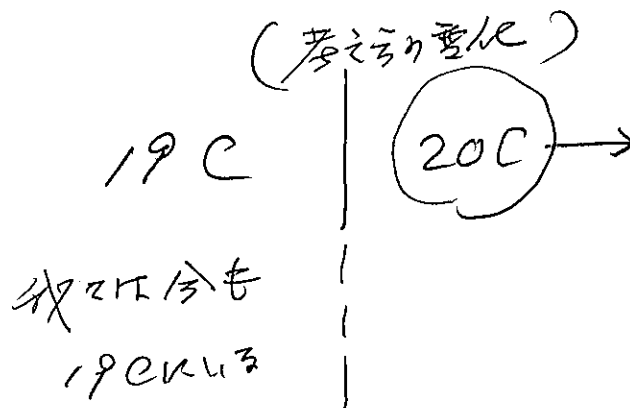
見者
)
ボア)
ウエル
(など)
ル
ン
7セルセ
川省資陽県

相対性理論

ヨゼフ・リヒター
2021.05.24

1. 自分たちが暮らしている世界の真の姿を示す

「時間と空間」についての革新的な理論!!



2. 時間と空間

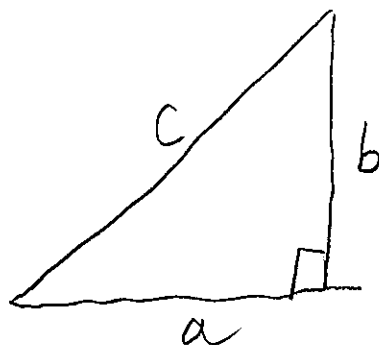
特殊相対性理論

⊕ 重力

一般相対性理論

3. 三平方の定理

$$c^2 = a^2 + b^2$$



4. 距離 = 速度 $\times$ 時間

5. 物事について相対的なもの

✓ 直感に反するポイント

ポイント ① 時間の遅れ

ポイント ② 時間の縮み

ポイント ③ エネルギー = 質量

6. ポイント ①

動いているものは、「時間が遅くなる」

運動をしているものは、時間が遅れて見える。

動いていると時間が遅れる!!

動いているものは、時間がゆっくりと進む。

7. ポイント ②

動くものの長さも縮む

8. ポイント③

$$E = \frac{F \cdot P}{\lambda}$$

エネルギーとは電量のことである

電量とエネルギーの等価性

9. 相対性理論がわかると世の中が解る
理論は人間に在る 故に一つだけ

10. 先ず、仮説を受入れる

それと事実があるとき、何が起きるかを知る

検証実験を繰り返す

11. 光速不変の原理とは何か

12. 相対性理論は、当時の「時間と空間」の概念を
覆す革新的な理論であった。

13. 相対性理論は、「光の速さ」がポイント

光の速度は、秒速30万km

(30万km/秒)

~~1秒間に地球を2回半もまわれる。~~

(但し、真空中の速度)

光を通す物質の中には若干遅くなる

14. 相対速度の求め方

動くもの同士の速度の計算

(自動車 100km/h
新幹線 300km/h で並走)

新幹線は遅く見える

V_B (新幹線), V_A (自動車)

$$\text{相対速度} = V_B - V_A$$

15. 自動車を 100 km/h で動かす

時速 300 km で走っている新幹線を見ると

新幹線は 200 km/h で走っているように見える

$$\underline{300 \text{ km/h} - 100 \text{ km/h} = 200 \text{ km/h}}$$

右の図は実際の遅さに見える

V_B (新幹線) V_A 自動車

16. 相対速度は自分の基準

逆に新幹線から自動車を見ると

$$100 \text{ km/h} - 300 \text{ km/h} = \Delta 200 \text{ km/h}$$

時速 200 km で後退しているように見える

V_A V_B

17 100 km/h ですれ違うとき

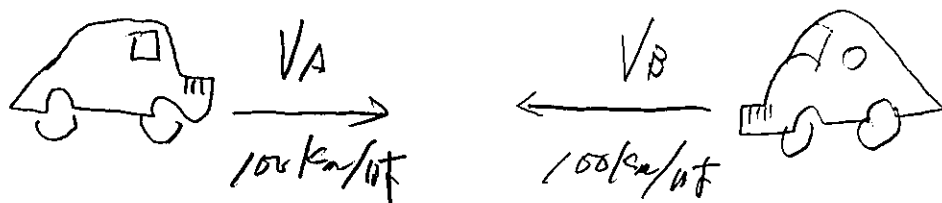
$$-100 \text{ km/h} - 100 \text{ km/h} = -200 \text{ km/h}$$

相対 200 km/h で逆走しているように見える

18.

逆向きの場合
A (自動車)

B (自動車)



$$-100 \text{ km/h} - 100 \text{ km/h} = -200 \text{ km/h}$$

近づいてくるように見える

19. 慣性とは何か?

20. 光の相対速度は、常に一定

30 万 km/h 、速度の最大値

身近な運動 $10/5 \sim 10$ とは違う?

① 光は、誰から見ても、 30 万 km/秒

② 光は、どの速度から発射されても、

30 万 km/秒 一定

21、 光は、「誰から見ても 30万km/秒である

22 光速不変の原理

23, 特殊相対性原理

どの慣性系でも物理法則は変わらない

動いている車の中と

止まっている空中と

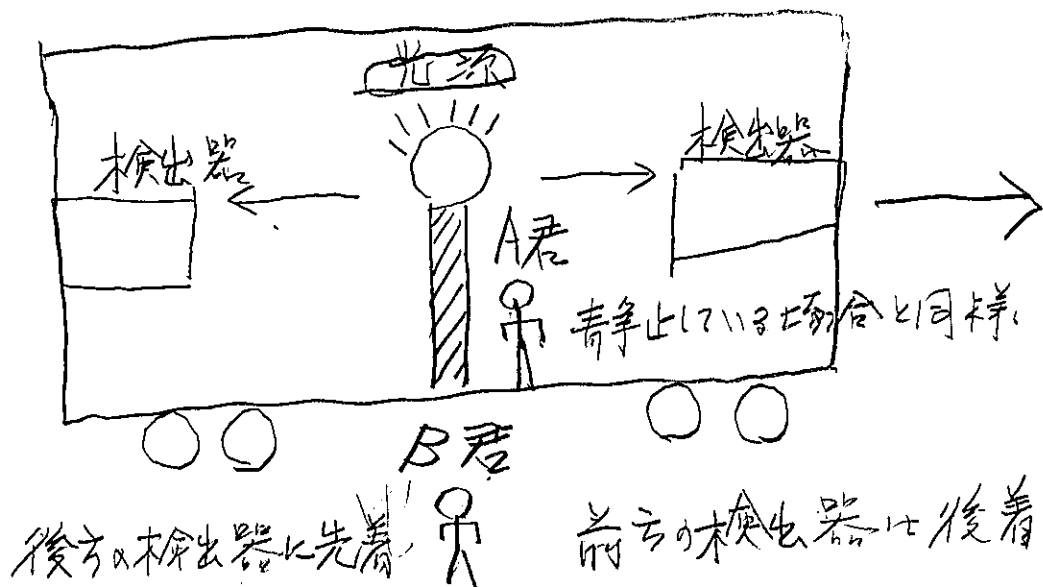
> 同じである、変わらない

24、 同時の相対性

時間と距離は 絶対的のものではない

$$\text{速度} = \frac{\text{距離}}{\text{時間}}$$

速度は、距離と時間 によって二次的に決まる



24、 A君にとっては同時に到着する

B君にとっては同時でない、
ハジラハツラに到着する

A君とB君は互いに 同時が共有できない
状態になっている。

—「同時性の不一致」— 同時性の破れ

同時の相対性

「同時」も、別の慣性系から見ると、変わってくる

これは、

① 光速不変の原理

② 相対性原理

の2つが同時に成り立つために起る帰結である

25. 「同時に起きるのに「同時ではない」

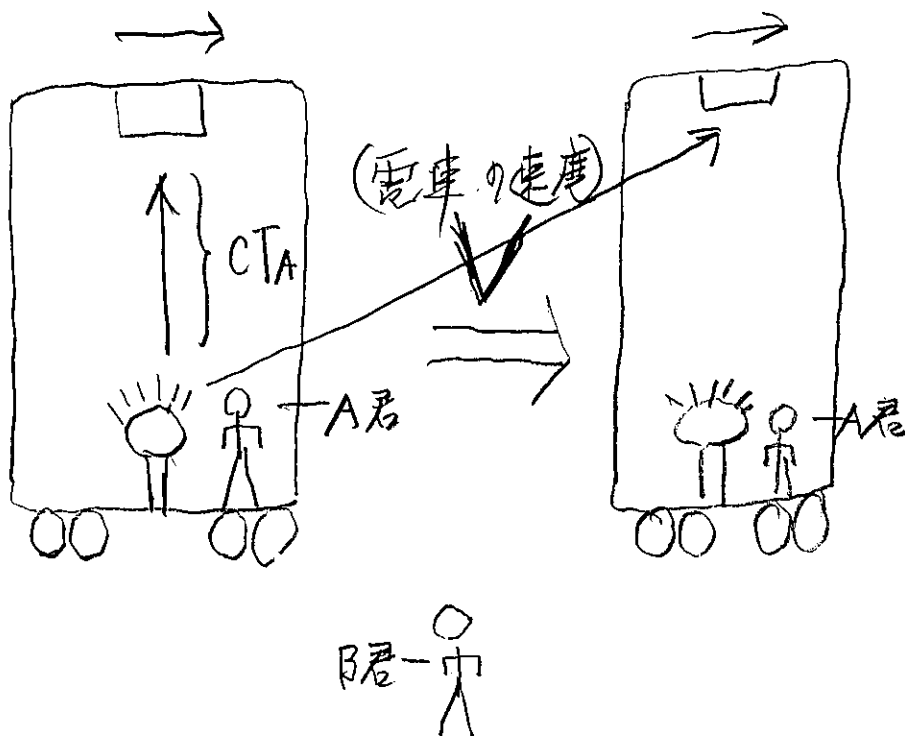
慣性系の外だと同時も変わる

「同時」は共有できない —

速度とは、距離と時間によって2次的に決まる

$$\text{速度} = \text{距離} \div \text{時間}$$

$$\text{光源から天井までの距離} = c(\text{光速}) \times T_A(\text{時間})$$



26. c ($= 30$ 万km/秒) は 光の速さ
一定の速度

T_B 天井の検出器に届くまでの時間 T_B

B君から見た 光の移動距離

$$= c (\text{光速}) \times T_B (\text{時間})$$

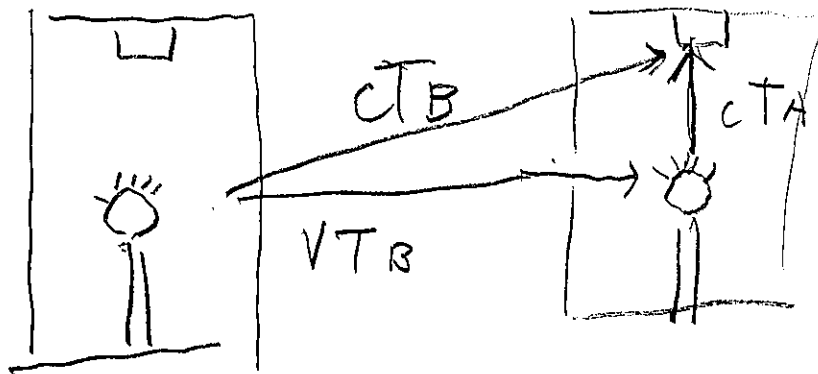
$$= \underline{\underline{c T_B}}$$

光が検出器までに動いた距離

光源が横に移動した距離

$$= V (\text{列車の速さ}) T_B (\text{移動時間})$$

$$= \underline{\underline{V T_B}}$$



27. 三平方の定理 による時間の遅れ

$$c^2 = a^2 + b^2$$

$$(cT_B)^2 = (VT_B)^2 + (cT_A)^2$$

両辺を c^2 で割る

$$c^2 T_B^2 \div c^2 = \left\{ (VT_B)^2 + (cT_A)^2 \right\} \div c^2$$

$$T_B^2 = \left(\frac{V}{c}\right)^2 T_B^2 + T_A^2$$

$$T_A^2 = (T_B)^2 - \left(\frac{V}{c}\right)^2 T_B^2$$

$$T_A^2 = \left\{ 1 - \left(\frac{V}{c}\right)^2 \right\} T_B^2$$

$$T_A = \sqrt{1 - \left(\frac{V}{c}\right)^2} T_B$$

$$1 - \left(\frac{V}{c}\right)^2 = 0.5 \text{ とする}$$

$$T_A = 0.5 T_B$$

よって T_A は T_B より小さい ... 時間の遅れ

28. 時間の遅れとは？

「ツリシ効果」

29. 空間の歪み

30. Theory of relativity

特殊相対性理論 1905年

一般相対性理論 1915年

時間と空間は密接に結びついて、4次元の
リーマン空間を構成する

リーマン幾何学 (4次元のリーマン空間)

(1) 任意の直線は必ず交わり

(2) 三角形の内角の和は、2直角より大きい

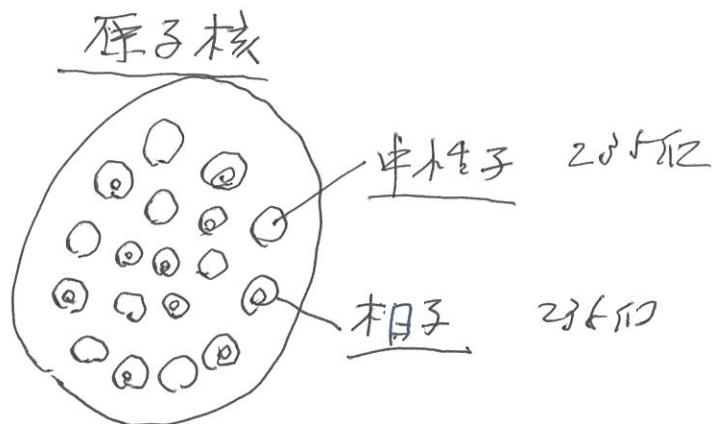
31. 時間と空間 4次元の時空 4次元空間

動いている物体の長さや進み方、

静止しているときに較べて進んだり遅れたりする特殊相対
論的効果は、時間と空間の互いにその一部を交換して
生じている

29. 質量保存の法則

ウラン 235 (陽子 235個
中性子 235個)



核分裂

原子核の分裂して一つのものにくっつく

① 中性子と陽子の数は変わらない

② しかし、分裂後の質量の合計が少しだけ軽くなる

③ この軽くなった質量は、ものすごい熱エネルギーを放出する

30 質量とエネルギー

質量の減少 (少しだけ軽くなった) (消失した) 分のエネルギーになる

質量減 $\rightarrow$ エネルギー増

3/ Iエネルギーが質量に変わった

アインシュタインの式

$$E = mc^2$$

E: Iエネルギー Energy
 m: 質量 kg mass
 c: 光速 $305 \text{ km} \times 10^3 / \text{秒}$

質量に $305 \text{ km} / \text{秒}$ の2乗を掛けた値は

Iエネルギーの値と等しい

$$E = mc^2$$

$$m \quad 1g \rightarrow 0.001 \text{ kg} = 1 \times 10^{-3} \text{ kg}$$

$$E = 1 \times 10^{-3} \text{ kg} \times c^2$$

$$c = \overset{305 \text{ km}}{10^8 \text{ m} / \text{秒}} = 3 \times 10^8 \text{ 秒}$$

$$E = 1 \times 10^{-3} \text{ kg} \times (3 \times 10^8 \text{ m})^2$$

$$= 9 \times 10^{13} \text{ J}$$

Iエネルギーは $90 \text{ EJ} (10^{15} \text{ J})$ となる

32

$1/g$ が持つ、とても高いエネルギー

90兆 eV

90兆 J = $1/g \times$ 光速度の2乗

$1/g$ 場や寸法が 原子核のサイズ程度の
エネルギーが必要になる



重力の理論を導き出すと

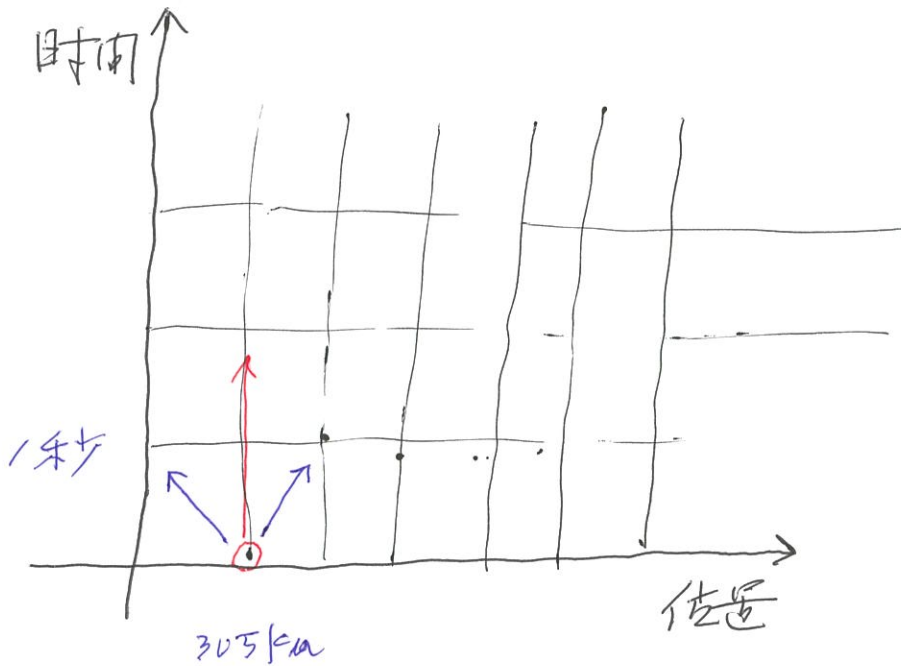


一般相対性理論になる

特殊相対性理論は一般相対性理論の
ある種の近似である

33. 時空図

同時かずい位置かにない



時間 横の点線の上にある場合は、
すなわち「同時性」を表す

位置 縦の点線の上にある場合は、
すなわち「同位置」を表す

(1) 位置が変化する、時間だけ経過する場合、

座標は上方へと直ぐ進む、



机上のリニア

(2) 光の進み方



相続税、贈与税の要約

2021.05.24
2021.01.
2020.12.28

(相続税)

1. 納税義務者

- (1) 相続、遺贈により財産を取得した個人
- (2) 相続時精算課税の適用を受ける贈与により財産を取得した個人
- (3) 無制限納税義務者（国内に住所を有する者、日本国籍を有する者）
- (4) 個人とみなされる人格のない社団等
- (5) 個人とみなされる信託の受託法人

2. みなし相続財産等

- (1) 生命保険金・損害賠償金（死亡）
被相続人が負担した保険料等に対応する部分
- (2) 退職手当金
- (3) 生命保険契約等に関する権利
- (4) 定期金に関する権利
- (5) 定額譲受、債務免除等

3. 非課税財産

- (1) 墓所・祭具等
- (2) 公益を行う者が相続等により取得した財産
- (3) 生命保険金等
500万円×法定相続人数の限度内
- (4) 死亡退職金等
(3)と同じ

4. 債務控除

- (1) 債務及び公租公課
- (2) 葬式費用
 - ① 葬儀、香典返礼費用
 - ② 墓碑、墓地の購入費用等
 - ③ 法事に要する費用
 - ④ 医学上等の特別の処置費用
 - ⑤ 社葬等の費用

5. 遺産にかかる基礎控除

- (1) 基礎控除 $\overset{3000}{5,000}$ 万円 $\overset{600}{}$
- (2) 法定相続人数控除 $1,000$ 万円 $\times$ 法定相続人の数

6. 相続税額の加算

7. 相続開始前 3 年以内贈与

8. 配偶者に対する相続税の軽減

- ① 法定相続分相当額又は 1 億 6 千万円のいずれか多い金額
- ② 申告期限から 3 年内の分割も可
- ③ やむを得ない事情があるときは、税務署長の承認を受けて、分割できることとなった日から 4 ヶ月以内に軽減の適用を受けることができる。
- ④ 隠蔽・仮装の場合の不適用

9. 相次相続控除

10 年以内に 2 回の相続が発生の場合

前回の相続税額の一定割合相当額に、10 年に対する経過年数を乗じた額が今回の相続税額から控除される。

今回の相続財産にかかわりなく、10 年内残存年数割合分（前回税額 100 百万円で 3 年経過なら 70 百万円が控除できる）が各相続人の今回の税額から単純に控除できる。

出題頻度 “相続の特色(点)”

1. 相続の特色には、民法原則と税法原則が存在する
 ①、それ以外に最重要な “相続人平等と満足あり”
 ②、それは人間原則である。

非嫡出子も平等の相続人

配偶者居住権 年 25-9.4 最高裁判決

配偶者居住権の評価

配偶者居住権の年限

土地及び建物

年限時の国定公平経済評価額(A) 4,000 円

(A)を複利増価で算定

仮に 10年とすれば

現在 10,000 円

10年後 9,000 円

10年後の残存価額を求む (10年後の残存価額)

年法定利率の複利増価

$$9,000 \times (1 - 0.05)^{10} = 9,000 \times 0.6139 = 5,525$$

差額 現時点の国定公平経済評価額(A) 4,000

評価額

2,600

土地建物の相続人に係る評価

配偶者居住権の評価は差額を

※2次相続の時点で 配偶者居住権は消滅するものとなる

※1次相続(1) 配偶者居住権 の評価

(2) 土地建物(1)

※2次

(3) (1)の消滅の評価はなし

時代の変化 アトハサンの基本 相模の地をしの
岡村 裕 先生

昭和の時代 講演会、節税対策

地価上昇、家賃上昇、事業拡大、寿命70

相模院へ送られる、前にも送られる土地
(方々)

結局、節税対策に失敗(ニンニク)
外資も来う

平成の時代

1970年代前半 地価を上げ、金で逆転

地価下落、事業縮小、不景気、長寿社会

28年連続

日本人の寿命が世代を超えて

令和の時代

アトハサンの基本は

(1) 昭和の時代を知りたい アトハサン

(2) 昭和の時代のその他のアトハサン

(3) 昭和を知り、それを平成に活かすための仕組み

① 地価が下落し、家賃が下落し、空室が増加する経済

② 30年を経過した賃貸ビルが半壊は国建

③ 50年を経過した全所有ビルが、アトハサンの時代
天井の高さ、廊下の長さ、排水設備の故障

④ 土地利も完全に西化がある時代

1億円土地でも 8千円の税金

2. 相続財産の限定承認

(1) 概要図

	被相続人 百万円	相続（単純）	（限定承認）
購入価額	200		
現在時価	200		
相続評価	150	① 150-180 債務 180	② 150-150
準確定申告			②被相続人 200-200=0
相続人取得価額			200
		相続税 0 取得価額引継	相続税 0 取得価額引継

(2) 譲渡所得税の申告等

- ① 限定承認をすると譲渡所得の基になる財産は、相続開始時には被相続人から相続人へ時価で譲渡したものとみなされて、被相続人の譲渡所得税の申告が必要になる。尚、住民税の申告は必要ない。

売却代金（時価）－ 取得費 － 特別控除等 ＝ 譲渡所得

- ② 相続税の課税関係

相続財産の評価 － 債務、譲渡所得税控除 ＝ 課税価格

図表 2. 昭和、平成のアウトハイパー

相続税の節税対策、アウトハイパーの増加による相続税の増加を抑制!!

このアウトハイパー — 事業発生、相続税対策、相続対策

昭和の時代 — 地価の上昇、家賃の上昇、事業の拡大、寿命は70年

後は相続税に逆らわず、前には相続税を払う土地という餅

1. 養子の相続権 (53.12.31以降)

- (1) 縁組の日から 実子と同様の相続権も取得する
- (2) 実親に対しても実子としての相続権を持つ (二重の相続権)
- (3) 特別養子は、実子の親族関係は終了する

2. 養子の数に制限 (相続税)

- (1) 被相続人に実子がいない場合は 養子は 1人まで
- (2) 実子がいない場合は、2人まで
- (3) 制限外の養子の 寄附控除は無い
到合計算はするの? (?)

国根4- 昭和から平成へ

- (1) 地価が下落し、家賃が下落し、空家が増加する経済
- (2) 30年を経過した賃貸ビル、大規模修繕、機能の陳腐化、給排水設備の故障
- (3) いま、土地よりも現金に価値がある / 何坪の土地よりも8千万円の現金
- (4) 50年を経過した区分所有ビルなどは、取崩し費用がかかるとして
- (5) 今55歳の人、生存率は100歳を超えている

国根5. 分譲時代の財産相続

- (1) 土地が(地下)分譲時代になり、土地は親が所有し、居室も親が建築し、建物は子供に賃貸して提供が
- (2) 時代が変り更に時代が変り

相続税

2020.12.28

1. 債務控除は、相続により取得した財産から控除する

2. 遺産分割される債権、債務が確定した場合
相続人間で債務の融通(変更)はできない

3. 債権者は、相続人に対し、その法定相続分を請求できる
ただし、債務は遺産分割の対象とはならない

4. 例えは未返済の借入金や不動産を取得した人など、
その債務(借入金)を負担している。

この場合、債権者の請求を得られない。

遺産分割協議書に基づいて支払を拒むことはできない。

5. 相続税では、分割協議書に基づいて債務控除される

3. 特定居住用小規模宅地等の特例の改正

宅地等の利用区分			限度面積	同左改正後	減額割合
			m ²	m ²	%
①	被相続人等の事業用		400	400	80
②	〃	特定同族会社事業用	400	400	80
③	〃	貸付事業用 (一定法人)	200	200	50
④	〃	貸付事業用	200	200	50
⑤	〃	居住用	240	<u>330</u>	80

4. 相続時精算課税の適用対象者の範囲の拡充

	改正前	改正後
贈与者	65 歳以上の直系尊属	<u>60 歳以上へ改正</u>
受贈者	20 歳以上の推定相続人	<u>推定相続人及び孫へ改正</u>

5. 相続した非上場株式を発行会社に譲渡した場合の特例

配当所得から譲渡所得の申告の選択が可能（届出書必要）

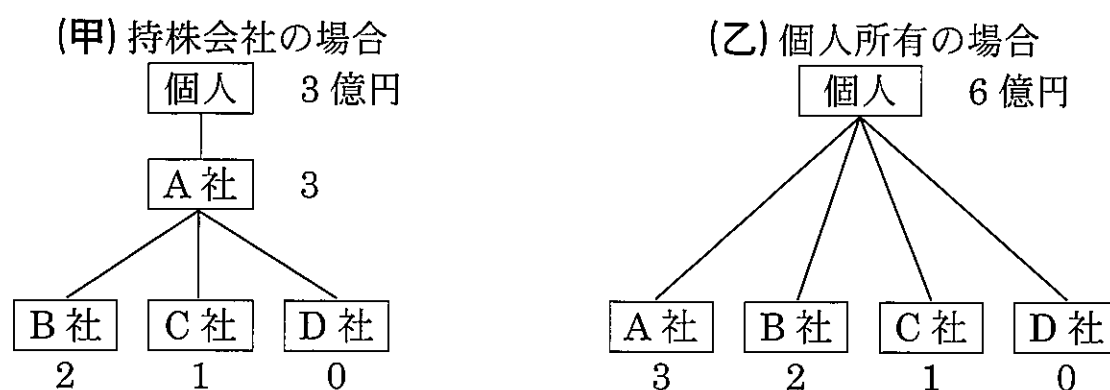
株式評価の二つの場合

H26.1.10

前提：A～D 社 資本金 1 億円

大会社 類似業種による評価額：A 社 3 億円、B 社 2 億円

C 社 1 億円、D 社 0（債務超過）



個人所有の場合、A～D 社の評価額の合計 6 億円となる。

株

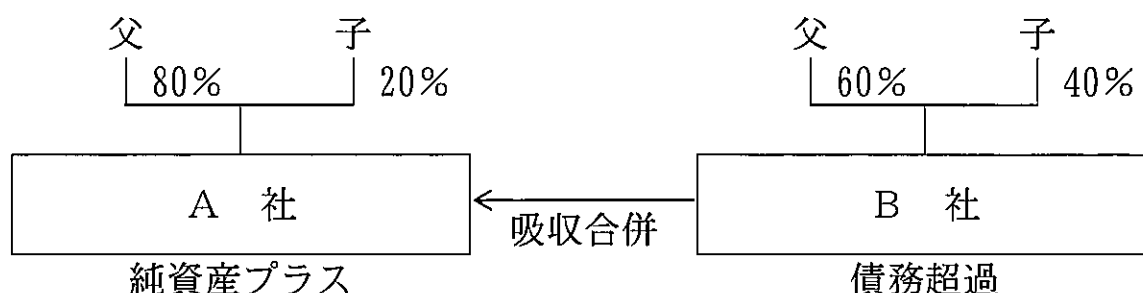
持株会社の場合、個人が所有する株式の評価総額は A 社のみの 3 億円となり、持株会社の方が有利。

A 社が B～D 社を保有しても、A 社の配当、所得、別表五(一)利益積立金は変わらない為、A 社株式の類似業種による評価額は 3 億円のままとする。

ただし、A 社が株式保有特定会社に該当する場合（株式保有割合が 50%以上）を除く。

Ⅲ. 実務での留意点

1. 無対価合併について



- (1) 子にみなし贈与の問題が生じ得る
- (2) 非適格合併となる
- (3) (2)により繰越欠損金の引継ぎができない

グループ法人税でいう完全支配関係とは、一の者（その者が個人である場合には、その者及びこれと特殊の関係のある個人）が法人の発行済株式の全部を直接もしくは間接に保有する関係とされているが、**適格合併**においては、**個人**の場合は一の者が個人一人に限定されている。

- (4) 本件については、A社の株主を父に集約したうえで、A社とB社の無対価合併を行うことにより繰越欠損金の引継ができる。(Nの場合)
- (5) 又は、B社株式のすべてを、A社が買取った後に合併を行えば適格合併ができると考えられる。
- (6) 債務超過会社との合併により、A社株式の評価額が引下がることが考えられる。(Tの場合要検討)
- (7) (4)～(5)については、合併に至った事情・背景等租税負担の減少以外の合併の理由等も説明できるようにする必要がある。

负担付印者

(款)
土地取得 10 亿円
仕入金 10 亿円

土地10亿亩

借入金 10 亿元

(2.3)
相线电压的6线网
总电压为
空载6线网电压

土地 644 (卷)

債務 6514

Exp instruction.

< 夏樹村の地蔵堂 >

4月12日相場の相違計算から伝説

油是防虫的 ⑤ 是菜油 10 斤 4 斤 10 斤

④ 漢休、負担計は送金送金、送金送金の節税防止のために導入された
送金送金、所得税の節税防止のために導入された。

1. 紅人胡9 讀漢

2. “负担保”

3 法人-個人間の語彙

贈者 西格特、村の村人
 受贈者 贈子親の母。

负担外 25 元 4 角 1 分

附(西航)

OK 4/22

订 59 所得利
赠予利

陈永达

謝子明 新得乳

卷四 贈李元

1. 負担付買収と違 (4元、4.1以降)

時価10億円土地を借入金で購入し、
相応程の額 6億円程度の負担を付し買収する
と同等

そうすれば、4億円の相応の圧縮になる

—— しかし、これは 相応程の場合も同様の圧縮になる

2. 1. の目的は、所得税の節税防止のために導入された違だから

10億円取得した土地を6億円で購入し、

4億円の譲渡損と計上する

それ その損失を他の所得と同等する節税を行う

3. しかし、1962年 H16.1.1以降、土地の譲渡損と 他の所得の同等は禁止されている

4. 所得税法 59条は、時価の2分の1以上の価格で譲渡について

・ その価格での譲渡を認めるとしている

明書

5. しかし、タミニングスレカ、負担付買収と違は生きている

回归分析

傾向をつかむ -

(予測の仕方)

(重回帰分析)

先のことから考えよう: 過去の経験を参考に

予測とは、欠落している部分の情報を作り出すことである。

大村 平 予測の仕方

2017.04.26 2020.09.14 / 2020.04.06 / 2017.12.04 2017.11.14 DATE 2017.09.04 2020.03.30

均事を参考に2017.04.26において 統計の技術を用いて

数字に置きかえる ... 思考を、そのプロセスで。

特徴とは平均からの距離

2つの現象を3つの現象を回帰する。

$$Z = ax + by + c$$

$$\sum \epsilon_i^2 = \sum (z_i - ax_i - by_i - c)^2$$

たくさんの変数が複雑にかつてある社会現象に 科学的なXとYをいれる手法の一群は 多変量解析 と呼ばれている。

Excel 回归分析

説明変数 X2(加齢) と X1(身長) に対して、被説明変数 Y(体重) を説明する。

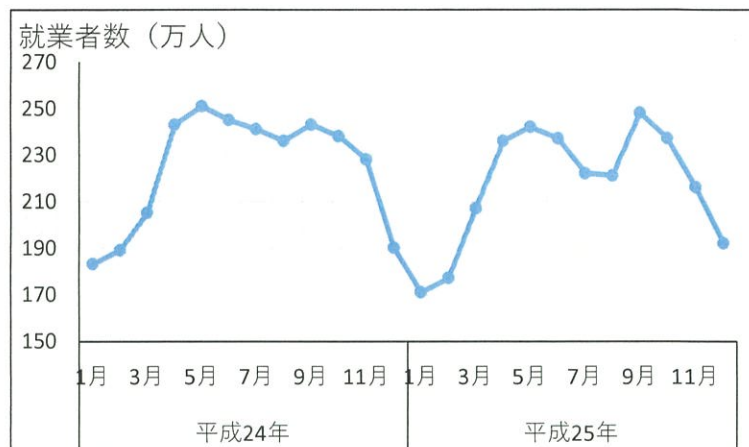
$$\text{体重} = (-89.698) + 0.805 \times \text{身長} + 0.005 \times \text{加齢} + 121 -$$

$$Y = -89.698 + 0.805 \times X_1 + 0.005 \times X_2$$

回归分析の最小二乗法により回帰式の各係数は、正規方程式の解である。

単回帰分析: 説明変数1つだけの特殊なケースである。

年	月	農林業 就業者数 (万)
平成24年	1月	183
	2月	189
	3月	205
	4月	243
	5月	251
	6月	245
	7月	241
	8月	236
	9月	243
	10月	238
	11月	228
	12月	190
平成25年	1月	171
	2月	177
	3月	207
	4月	236
	5月	242
	6月	237
	7月	222
	8月	221
	9月	248
	10月	237
	11月	216
	12月	192



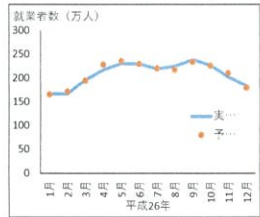
平成26年	1月	167
	2月	167
	3月	197
	4月	218
	5月	231
	6月	230
	7月	220
	8月	225
	9月	239
	10月	227
	11月	202
	12月	184

年	月	農林業 就業者数 (万)
平成24年	1月	183
	2月	189
	3月	205
	4月	243
	5月	251
	6月	245
	7月	241
	8月	236
	9月	243
	10月	238
	11月	235
	12月	190
平成25年	1月	171
	2月	177
	3月	201
	4月	236
	5月	236
	6月	227
	7月	222
	8月	221
	9月	240
	10月	227
	11月	216
	12月	192

平成26年	1月	167
	2月	167
	3月	197
	4月	218
	5月	231
	6月	219
	7月	220
	8月	225
	9月	229
	10月	227
	11月	207
	12月	184

平成	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	就業者数
24	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	183
24	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	189
24	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	205
24	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	243
24	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	251
24	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	245
24	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	241
24	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	236
24	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	243
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	238
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	235
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190
25	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	171
25	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	177
25	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	201
25	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	236
25	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	236
25	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	227
25	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	222
25	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	221
25	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	240
25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	227
25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	216
25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	192

											予備値	相対誤差
26	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	166.25	0.45%
26	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	172.25	3.14%
26	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	195.25	0.89%
26	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	228.75	4.93%
26	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	228.75	2.96%
26	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	229.25	0.11%
26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	229.75	0.34%
26	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	217.75	3.22%
26	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	224.75	1.78%
26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	226.75	0.11%
26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	211.25	4.58%
26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	180.25	2.04%
											平均相対誤差	1.97%



概要

回帰統計
重相関 R 0.989081
重決定 R² 0.978282
補正 R² 0.95459
標準誤差 5.34988
観測数 24

分散分析表

	自由度	変動	分散	観測され		
				f-分散比	有意 F	
回帰	12	14181.67	1181.806	41.29125	2.24E-07	
残差	11	314.8333	28.62121			
合計	23	14496.5				

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	366.5833	53.64349	6.833696	2.82E-05	248.5148	484.6519	248.5148	484.6519
平成	-7.16667	2.184079	-3.28132	0.007317	-11.9738	-2.35954	-11.9738	-2.35954
1月	-14	5.34988	-2.61688	0.023962	-25.775	-2.22499	-25.775	-2.22499
2月	-8	5.34988	-1.49536	0.162946	-19.775	3.775006	-19.775	3.775006
3月	15	5.34988	2.803801	0.017158	3.224994	26.77501	3.224994	26.77501
4月	48.5	5.34988	9.065625	1.95E-06	36.72499	60.27501	36.72499	60.27501
5月	55.5	5.34988	10.37407	5.12E-07	43.72499	67.27501	43.72499	67.27501
6月	50	5.34988	9.346005	1.45E-06	38.72499	61.77501	38.72499	61.77501
7月	40.5	5.34988	7.570264	1.1E-05	28.72499	52.27501	28.72499	52.27501
8月	37.5	5.34988	7.009503	2.24E-05	25.72499	49.27501	25.72499	49.27501
9月	54.5	5.34988	10.18715	6.14E-07	42.72499	66.27501	42.72499	66.27501
10月	46.5	5.34988	8.691784	2.94E-06	34.72499	58.27501	34.72499	58.27501
11月	31	5.34988	5.794523	0.00012	19.22499	42.77501	19.22499	42.77501

2. 人生は予知のかたまり

① 未来は過去の延長線上にあるわけである。

未知

未来は、
① 未来は人の努力によって変えられる — 人の問題
② 未来は未知である — 未来の問題

② 予知には二通りある。

① 過去の出来事から未来に反映しあうもの、変えられるもの

② 過去の出来事から未来に反映しないもの、変えられないもの

③ 数値的データから未来に反映しあうもの、変えられるもの

④ 予知する未来の近いもの、遠いもの

⑤ 未来は過去から未来に反映しあうもの、変えられるもの

③ しかし、過去に起こる出来事に未来を判断する方法を私は知らない

— 1979年 —

従って、重要なことは

① 過去の出来事

② 現在の出来事

④ 漁師は、一泊の代金を始めに支払う。その日、大漁に恵まれるという、ある程度

の、大漁を成り上げると、その日は終り、大漁に恵まれる。

彼は、聖書に引用されている聖書と不仲の年々周期的に起こる話を思い出した。

しかし、仕事に忙しかた、時間をムダにすることは、いまだに。

……漁師は魚の釣りかたを知らない……

3 変動とは

将来数値の変動とは、

(1) 傾向変動

全年の基調

全年の流れ

(2) 周期変動

1年を周期とする

季節変動

(3) 誤差変動

偶然に起因する

不規則変動

(4) 移動平均法、とれだけ誤差を減らす、

あるデータに含まれる誤差を、前後のデータに含まれる
誤差と共通いさせながら減らしていく方法である。

誤差は減るが、データが損をする

その法則は、^{傾向}うまく過去の出来事を説明し、かつ、将来のことを
予測することによって行う。

多くの現象は必ず、^{周期}誕生・成長・成熟・衰退・死という
ライフサイクルを辿っていくといえる。

最小二乗法

残差の平方和(面積)が最小となる直線
を求める

$$\sum d^2 = \sum (Y - a - bX)^2$$

$Y = a + bX$ という直線式

残差 $d = Y - a - bX$

式の左辺を D とする

D が最小になるのは、 D が a, b による偏微分
が 0 になる場合である。

左辺を D とし a を偏微分 $\frac{\partial D}{\partial a}$

$$\frac{\partial D}{\partial a} = 2 \sum (Y - a - bX)(-1) = 0$$

$$-2 \sum Y + \underbrace{2 \sum a}_{2 \sum 1} + \underbrace{2 \sum bX}_{2 \sum bX} = 0 \quad \sum Y = \sum a + b \sum X$$

$$\bar{Y} = a + b\bar{X} \quad a = \bar{Y} - b\bar{X}$$

左辺を b で偏微分 $\frac{\partial D}{\partial b}$

$$\sum Y = \sum a + b \sum X \quad \frac{\partial D}{\partial b} = \sum X(Y - a - bX) = a \sum X + b \sum X^2$$

$$b = \frac{n \sum XY - \sum X \sum Y}{n \sum X^2 - (\sum X)^2}$$

$$b = \frac{\sum (X - \bar{X})(Y - \bar{Y}) / n}{\sum (X - \bar{X})^2 / n} = \frac{\sum XY}{\sum X^2}$$

4. 予測の手から

(1) 過去にありものの

過去のデータ、その延長

(2) 未来にありものの

世とは 将来の流れ

相手の手の予測

→ 打ち手を決める

これを誤れば大恥する

政治家は

世の流れ

勢力変動を予測

相手を対象

現象に起る事象の予測

→ 政策を決める

これに誤っても……?
これに誤れば 大恥

(3) ソウニエットの崩壊

世の中の矛盾 制度の不一致 現状の流れ

ソウニエットの経済、社会の将来予測

人民の生活、不平等 今の事象

現象に起っている事象 政治、経済、社会

→ 崩壊

予測は、判断し、意思を注ぎ、行動を開始するところから!!

7. 予測の形式

(1) 直線

一つの傾向の直線 $\rightarrow 0 - \ominus$

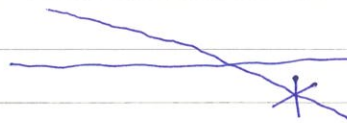
書店の将来の数 直線グラフで減り $\rightarrow$ 減り $\rightarrow$ 減り

(2) 2次曲線

一つの傾向の中を曲線で減り

書店の減少傾向 曲線グラフで減り $\rightarrow$ 減り $\rightarrow$ 減り

(3) 減少傾向の予測は、直線でも



0 へ減り

(4) 指数曲線

$$y = b a^x$$

$$\log y = \log b + x \log a$$

$$\log y = Y$$

$$\log b = B$$

$$\log a = A$$

$$\rightarrow Y = B + Ax$$

回归分析

原因と結果の関係式

$$Y = aX + b \quad \text{因果関係}$$

因果関係

散布図 2変数データの分布

視覚で確認するの重要性

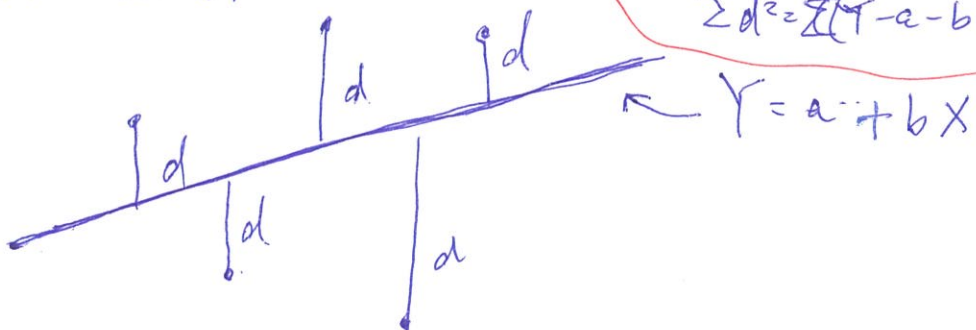
最小二乗法 (平方和, 面積和)

残差の2乗和を最小にする直線が最小二乗回帰式。
誤差

$$Y = a + bX$$

残差を d とすると

$$\sum d^2 = \sum (Y - a - bX)^2$$



$$Y \pm d = a + bX$$

$$d^2 = (Y - a - bX)^2$$

$$\sum d^2 = \sum (Y - a - bX)^2$$

$$Y = a + bX$$

$$D = \sum d^2 = \sum (Y - a - bX)^2 \quad \text{の値を最小にするように}$$

a, b の値を決すれば、 D が最小になる。

Type
① 最小-最大

D が最小になるのは D の a, b に対する偏微分を
左側を a として a を偏微分 $\left(\frac{\partial D}{\partial a}\right)$, 右側を b として b を偏微分 $\left(\frac{\partial D}{\partial b}\right)$
両方が 0 になる場合である。

$$\frac{\partial D}{\partial a} = 2 \sum (Y - a - bX) (-1) = 0$$

a を微分すると $-a$ になる、 (-1) になる a の微分 $(Y - a - bX)' = -1$

$$\frac{\partial D}{\partial b} = 2 \sum (Y - a - bX) (-X) = 0$$

b を微分すると $-bX$ になる、 $(-X)$ になる b の微分 $(Y - a - bX)' = -X$

a を微分すると ②

$$-2 \sum Y + 2 \sum a + 2 \sum X = 0 \quad \sum Y = \sum a + b \sum X$$

$$= na + b \sum X$$

$$a = \bar{Y} - b\bar{X} \quad \text{と} \quad \text{③}$$

$$b = \frac{n \sum XY - \sum X \sum Y}{n \sum X^2 - (\sum X)^2}$$

分母、分子を n で割ると

$$b = \frac{\sum (X - \bar{X})(Y - \bar{Y}) / n}{\sum (X - \bar{X})^2 / n} = \frac{\sum (X - \bar{X})(Y - \bar{Y})}{\sum (X - \bar{X})^2}$$

$$Y = a + bX$$

$$Y = \bar{Y} - b\bar{X} + \frac{\sum XY}{\sum X^2} X$$

$$= \bar{Y} - \frac{\sum XY}{\sum X^2} \bar{X} + \frac{\sum XY}{\sum X^2} X$$

$$= \bar{Y} + \frac{\sum XY}{\sum X^2} (X - \bar{X})$$

重回帰分析

説明変数 (独立)

日付 X_1 時刻 X_2 イベント X_3 目的変数
(従属)インベンの年当売上 Y

$$Y = aX_1 + bX_2 + cX_3 + \epsilon$$

重回帰分析により、複数の要因の中から、

結果に対して明確に影響のある主要な要因を抽出する 要因分析目的 (従属)
要因説明 (独立)
結果

ある原料から製精される製品の製造条件と収量

投入速度 $a_1 X_1$ 反応炉温度 $a_2 X_2$ 反応炉圧力 $a_3 X_3$ 収量 Y

$$Y = a_1 X_1 + a_2 X_2 + a_3 X_3 + \epsilon$$